

《博士前期課程》

IV— iii 作業療法学分野

神経障がいリハビリテーション学特論	123
神経障がいリハビリテーション学特論演習	124
作業活動解析学特論	125
作業活動解析学特論演習	126
内部障がいリハビリテーション学特論	127
内部障がいリハビリテーション学特論演習	128
発達過程作業療法学特論	129
発達過程作業療法学特論演習	130
作業療育学特論	131
作業療育学特論演習	132
作業療法学特別研究	133

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
神経障がい リハビリテーション学特論 (専門科目)	教授・菊池 昭夫 准教授・外川 佑	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能の概説、脳画像の見方、脳損傷の原因疾患、脳損傷によって生じる種々の症状を説明する。 ・脳卒中および頭部外傷の対象者を対象とした自動車運転再開に向けた評価や支援の流れや、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題および実施する評価、支援の考え方について説明する。 *学生の要望があれば、テーマを絞り、それに対応した講義内容にする場合もある。 						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能、脳画像の見方、脳損傷の原因疾患、症状、高次脳機能障がいについて理解し、研究の基礎とする。 ・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題と実施する評価・支援を理解し、研究の基礎とする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能、脳画像の見方、脳損傷の原因疾患、症状、高次脳機能障がいについて図を描いて説明し、研究に応用することができる。 ・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題と実施する評価・支援とそのアウトカムを、研究に応用することができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	レポート(50%)と口頭発表(50%)により評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ～ 8	後日連絡	脳の構造と機能 脳画像の見方 脳損傷の原因疾患 脳損傷の症状 高次脳機能障がい	スライドとプリントを用いた講義 参考図書の輪読 論文の抄読 症例の検討 討論など	授業項目に関連した情報 を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業 に臨んでください。	菊池 外川
9 ～ 15	後日連絡	自動車運転評価と支援 神経心理学的検査 ドライビングシミュレータ 評価 実車運転評価 運動行動モデル			
教科書 参考図書	必要に応じて資料を配布する。				
履修上の注意	輪読、抄読の予習をしていただく場合がある。				
学生への メッセージ	どんどん質問してください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	菊池 昭夫：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp				

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
神経障がい リハビリテーション学特論演習 (専門科目)	教授・菊池 昭夫 准教授・外川 佑	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	可
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・脳損傷によって生じる種々の症状、責任病巣、病態機序を説明する。特に、パーキンソン病などの神経変性疾患の症候、病態を中心に自ら学習し、結果をまとめ、発表する手助けを行う。 ・脳卒中および頭部外傷の対象者を対象とした自動車運転再開に向けた評価や支援の流れや、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題および実施する評価、支援を中心に自ら学習し、結果をまとめ、発表する手助けを行う <p>*学生の要望があれば、テーマを絞り、それに対応した講義内容にする場合もある。</p>						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳損傷によって生じる種々の症状、責任病巣、病態機序を理解する。パーキンソン病などの神経変性疾患の症候、病態について、先行研究の結果、不明点などを理解する。 ・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題と実施する評価・支援を理解し、先行研究の結果、不明点などを理解する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病などの神経変性疾患の症候、病態について自主的に、先行研究の結果、不明点などを調査、整理し、発表できる。神経変性疾患に関する研究の計画を立てることができる。 ・自動車運転再開に向けた評価や支援の流れ、脳損傷によって生じうる種々の運動行動上の問題と実施する評価・支援について自主的に、先行研究の結果、不明点などを調査、整理し、発表できる。自動車運転支援に関する研究の計画を立てることができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	レポート(50%)と口頭発表(50%)により評価する。						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 15	後日連絡	脳損傷の症状・責任病巣・ 病態機序 神経変性疾患に対する 様々な研究アプローチ	基礎的な講義を行った後、 症例の提示 文献の検索	授業項目に関連した情報を積極的に収集し、疑問点を明確にして授業に臨んでください。		菊池 外川	
16 ～ 30	後日連絡	運転再開可否予測 右半球損傷患者の運転 ドライビングシミュレータを用いた介入 運転補助装置の適合 実車運転を用いた介入	文献で用いられた手法の討議 症例の解釈についての討論 文章化などを行う				
教科書 参考図書	必要に応じて資料を配布する。						
履修上の注意	発表の準備をしていただく場合がある。						
学生への メッセージ	どんどん質問してください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菊池 昭夫：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 外川 佑：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生						
作業活動解析学特論 (専門科目)	教授・藤井 浩美	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否						
授業概要	生活障害を日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から捉え、動作分析や作業分析の研究をはじめとして、生活環境や心理社会的側面について最新の知見を概説する。一方では、生体の構造と機能を基礎とした機能評価、各種疾患に現れる障害パターンを取り上げ臨床で用いられる作業活動との関連性を教授する。そして、臨床で行われる高齢者や障害者に対する作業療法の有用性について理解を検証する。												
一般目標	生活障害を作業活動解析学の視点から理解する。												
到達目標	認知領域：日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から説明することができる。 情意領域：計測機器の操作を通じて、対象者の客観的データ計測に係わる全容に配慮できる。 精神運動領域：計測機器の操作ができる。必要な情報について国内外を問わず収集できる。 以上を通じて、生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を解説できる。												
成績評価方針 評価方法 および基準	グループ討議度：25% (5回) 討議への参加度：25% (5回) 最終時レポート：50% 作業療法学特別研究の研究計画作成が可能かを判定する。												
授業形式	対面授業と遠隔授業												
授業計画													
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当								
1	集中講義 (後日連絡)	作業活動の実践	作業活動の実践を示し、討議する。その後、今後の研究計画を検討する。	英文 献を 中 心に抄 読 し、他者の研 究デ ザイン や研究方法 を積 極的に 学んでく ださ い。	藤井								
2		研究のすすめ方	具体的な研究手続きが説明できるよう講義および討議する。		藤井								
3		研究のすすめ方	作業仮説の立て方が説明できるよう講義および討議する。		藤井								
4		ヒトの中枢神経機構解析の理解	ヒトの中中枢神経機構解析の歴史と解析方法を概説し、討議する。		藤井								
5		研究法の実践	作業療法学分野で修めた成果を検証する。		藤井								
6		作業活動解析の理解	日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動に分類し、研究手法に関する内容を講義した上で討議する。		藤井								
7		研究法の実践	作業療法学分野で修めた成果を検証する。		藤井								
8		人、作業、環境の関係の理解	作業活動解析学による研究デザインを理解し、説明する。		藤井								
9		研究法の実践	作業療法学分野で修めた成果を検証する。		藤井								
10		作業活動解析のまとめ	これまでの特論の経過をまとめ、全国作業療法学系大学院ゼミナールに向けた準備をする		藤井								
11	別途連絡	研究の実際	全国作業療法学系大学院ゼミナールに参加して、発表および質疑応答する。	他 大 学 の 教 員 や 大 学 院 生 と 交 流 し、他大 学 の 研 究 手 法 を 理 解 す る。	藤井								
12													
13													
14													
15													
教科書 参考図書	参考書：市原清志：バイオサイエンスの統計学。南江堂。東京, 1993. 鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門。三輪書店。東京, 1997. 金子翼、他：PT・OT のための統計学入門。三輪書店。2000.												
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況(一般・社会人)によって変更可能ですので、事前にご相談ください。												
学生への メッセー ジ	目的意識を持って臨んでください。												
e-mail・研究室 (連絡先)	藤井 浩美：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp												

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生								
作業活動解析学特論演習 (専門科目)	教授・藤井 浩美	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否								
授業概要	生体の構造と機能を基礎とした機能評価、能力評価および各種疾患に現れる障害パターンを取り上げ臨床で用いられる作業活動との関連性を見出すための計測方法を教授する。そして、臨床で行われる高齢者や障害者に対する作業療法の有用性について理解を検証する。														
一般目標	生活障害を作業活動解析学の視点から理解する。														
到達目標	認知領域：日常生活活動、生産(仕事)活動、余暇(遊び)活動の3側面から計測方法を説明できる。 情意領域：実験をデザインし、バイスを予測しながら実験の実施に配慮できる。 精神運動領域：各計測機器の特性を相互に組み合わせた操作ができる。 以上を通じて、生活障害を作業活動解析学の視点から捉えるための具体的方法を解説できる。														
成績評価方針 評価方法 および基準	グループ討議度：25% 実験への参加度：50% 最終時レポート：25% 作業療法学特別研究の実施が可能かを判定する。														
授業形式	対面授業と遠隔授業														
授業計画															
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当								
1	集中講義 (後日連絡)	研究計画の討議	作業活動解析学で作成した研究計画を討議し、修正を加えることができる。			英文献を中心に抄読し、他者の研究デザインや研究方法を積極的に学んでください。 藤井									
2		予備実験	研究計画に則り、心身機能や能力の情報収集をするための手法を身につける。												
3		研究計画の討議	修正した研究計画を分野会で討議し、適切な再修正を加えることができる。												
4		予備実験	研究計画に則り、心身機能や能力の情報収集をするための手法を身につける。												
5		研究計画の討議	修正した研究計画を分野会で討議し、適切な再修正を加えることができる。												
6		予備実験	研究計画に則り、心身機能や能力の情報収集をするための手法を身につける。												
7		研究計画発表会後の フィードバック	研究計画発表に対する質疑応答を受け、その内容をフィードバックする。												
8		予備実験	研究計画に則り、心身機能や能力の情報収集をするための手法を身につける。												
9		研究計画の討議	修正した研究計画を分野会で討議し、適切な再修正を加えることができる。												
10		研究計画の討議	修正した研究計画を分野会で討議し、適切な再修正を加えることができる。												
11		最終発表会での討議	最終発表会から自身の研究計画と対比し、研究計画の最終見直しができる。												
12		研究計画の最終確認	修正した研究計画を分野会で討議し、最終的な研究計画を作成できる。												
教科書 参考図書		参考書：市原清志：バイオサイエンスの統計学. 南江堂. 東京, 1993. 鎌倉矩子、他：作業療法研究法入門. 三輪書店. 東京, 1997. 金子翼、他：PT・OT のための統計学入門. 三輪書店. 2000.													
履修上の注意		講義時間は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。													
学生への メッセージ		目的意識を持って臨んでください。													
e-mail・研究室 (連絡先)		藤井 浩美：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp													

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
内部障がい リハビリテーション学特論 (専門科目)	教授・佐藤 寿晃	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	内部障がい疾患によって生じる種々の病態を理解し、症例ごとの特性を評価し、効果的な作業療法プログラムを立案できるよう学習します。学生が特に興味をもつ内部障がい疾患があった場合は、それに対応して、その疾患を詳細に探求してゆきます。						
一般目標	内部障がい疾患の理解を深め、検査測定結果の解釈することから、効果的な内部障がい疾患の作業療法プログラムを立案できる。						
到達目標	1. 内部障がい疾患の特性を理解したうえでリスク管理を概説できる。 2. 内部障がい疾患の検査・測定方法、結果の解釈を概説できる。 3. 内部障がい疾患の作業療法プログラムを立案できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	グループ討議：50% レポート提出：50%						
授業形式	対面または遠隔講義						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 15	集中講義 (後日連絡)	呼吸器系の構造と機能概論 呼吸機能検査や評価法概論 呼吸リハビリテーション概論 在宅治療機器の概要 循環器系の構造と機能概論 心機能検査や評価法概論 心臓リハビリテーション概論 総括	講義 論文の解説 討論	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐藤		
教科書 参考図書	授業ごとに文献を指定します。						
履修上の注意	講義日程は受講者の状況によって変更可能です。						
学生への メッセージ	実践事例をもとに、内部障がいリハビリテーション学研究に必要な情報を提供します。						
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
内部障がい リハビリテーション学特論演習 (専門科目)	教授・佐藤 寿晃	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	呼吸器疾患や心疾患患者の評価で用いる様々な測定機器を用いて、実際の日常生活活動中の呼吸・循環応答に関するデータを収集する。それらのデータをまとめて、発表し、日常生活活動中の呼吸・循環応答を理解する。						
一般目標	日常生活活動中の呼吸・循環応答を理解し、実際の収集したデータを日常生活活動指導へ活用できる。						
到達目標	1. 呼吸器・循環系の構造と機能を理解できる。 2. 測定機器の操作ができる。 3. 日常生活活動中の呼吸・循環応答が理解できる。 4. 測定結果の解釈ができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	測定結果のレポート提出：50% 発表 50%						
授業形式	対面または遠隔講義						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 30	集中講義 (後日連絡)	呼吸器系の構造と機能 (演習) 循環器系の構造と機能 (演習) 各種測定機器の操作 (実習) 日常生活活動中の呼吸・循環応答 (実習) データ解釈、レポートまとめ (実習) 発表 全体のまとめ	講義・演習・実習	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐藤		
教科書 参考図書	授業ごとに文献を指定します。						
履修上の注意	講義日程は受講者の状況によって変更可能です。						
学生への メッセージ	実習などが多くなるので、動きやすい服装で臨んでください						
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤寿晃：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)		担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生										
発達過程作業療法学特論 (専門科目)		准教授 森 直樹	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否										
授業概要	発達障がい作業療法の対象疾患は多様であり、その疾患特性に応じた評価、治療方略が求められる。本科目では、発達障がい領域における臨床実践力を高めるため、講義と討論から治療方略を学ぶ。また、発達障がい領域の最新の知見やトピックスについて英文抄読を行い、作業療法の観点から理解を深める。																	
一般目標	発達障がい作業療法において対象とする多様な疾患特性、作業療法評価、治療方略を理解できる。																	
到達目標	発達障がい作業療法における対象疾患の特性を理解できる。 発達障がい領域における具体的な作業療法評価、治療法略を説明できる。																	
成績評価方針 評価方法 および基準	講義 50%、口頭発表 50%にて判定する																	
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）																	
授業計画																		
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習 など	担当											
1～2	集中講義 (後日連絡)	神経発達的治療法		講義と討論		プレゼンテーション文献検索、情報収集英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください。	森											
3～6		感覚統合療法理論、評価、治療介入		講義と討論														
7～8		訪問作業療法（発達障害）		講義と討論														
9～10		特別支援教育における作業療法		講義と討論														
11～12		発達障がい領域における ICT 支援		講義と討論														
13		発達障がい領域における福祉用具支援		講義と討論														
14		発達障がい領域における最新のトピックス		講義と討論														
15		研究計画の立案、文献検索、研究デザイン		講義と討論														
教科書 参考図書	特になし。																	
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。																	
学生へのメッセージ	目的意識を持って臨んでください。																	
e-mail・研究室 (連絡先)	森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp																	

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
発達過程作業療法学特論演習 (専門科目)	准教授・森 直樹	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	発達過程作業療法学特論をもとに、具体的な実践能力を修得するための演習を実施する。また、発達障がい領域の最新の知見やトピックスについて英文抄読及び討議により作業療法の観点から理解を深める。						
一般目標	発達過程作業療法学特論の講義内容を理解し、実践できる能力を修得できる。また、発達障がい領域の最新の知見・トピックスをまとめ、科学的・論理的思考を養い、研究計画を遂行のため手法を理解する。						
到達目標	発達過程作業療法領域における遅れや滞りを作業療法の観点から理解する。 神経発達的治療理論における作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 感覚統合療法理論における、作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 地域作業療法（訪問作業療法）における評価、治療介入について演習を通して修得する。 特別支援教育における作業療法評価、治療介入について演習を通して修得する。 発達障がい領域における福祉用具、ICT 支援について演習を通して修得する。 研究課題を検証するための研究計画の立案、方略について説明できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	レポート 50%、口頭発表 50%にて判定する						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ～ 30	集中講義 (後日連絡)	神経発達的治療理論における作業療法評価、治療介入、演習 感覚統合療法理論における作業療法評価、治療介入、演習 訪問作業療法（発達障害）における評価、治療介入、演習 特別支援教育における作業療法評価、治療介入、演習 発達障がい領域における ICT 支援、演習 発達障がい領域における福祉用具支援 (主に車椅子、座位保持装置) 発達障がい領域における最新のトピックス 研究計画の立案、文献検索、研究デザイン、討論	基礎的講義討論、 学外演習 • 特別支援学校、 • 病院・施設、訪問 症例検討 英文抄録	プレゼンテーション 文献検索、情報収集 英文抄読、課題に対するレポート等の準備を行い、積極的に学習してください	森

教科書 参考図書	特になし
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する
学生へのメッセージ	目的意識を持って臨んでください。
e-mail・研究室 (連絡先)	森 直樹：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
作業療育学特論 (専門科目)	名誉教授・佐竹 真次	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	<p>発達過程作業療法を基礎とした発達評価・治療に加えて、行動分析学、臨床発達心理学、臨床心理学、教育心理学等の観点から、発達障がいをもつ人の発達をトータルに支援するのに必要な個体要因と環境要因およびその関係性を概説する。</p> <p>また、家庭、福祉、保育、教育等の機関に対するコンサルテーションのあり方を学び、医療と教育のインターフェイスの役割をも具備した療育・教育的作業活動支援の学（作業療育学）について理解を深める。</p>						
一般目標	<p>1. 発達障がいをもつ人の個体要因と環境要因およびその関係性を分析・調整し、発達をトータルに支援する方法を理解する。</p> <p>2. 家庭、福祉、保育、教育等の機関に対するコンサルテーションならびに作業療育学のあり方を理解する。</p>						
到達目標	<p>①行動分析・行動アセスメントについて述べることができる。</p> <p>②発達に対する臨床心理・教育心理の役割を述べることができる。</p> <p>③対象への作業療育学的接近のあり方について述べることができる。</p> <p>④単一症例実験計画法を用いて作業療育学的接近の結果を整理することができる。</p> <p>⑤地域における作業療育学的発達支援のあり方について述べることができる。</p>						
成績評価方針 評価方法 および基準	<p>討論（15点） 理解度チェック（試験等）（45点） リポート提出（40点） 等を総合して成績評価を行う。</p>						
授業形式	対面授業（一部を遠隔授業とする場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1～15	集中講義 (後日連絡)	1. 行動分析 2. 行動アセスメント 3. 発達と行動 4. 発達と臨床心理 5. 発達と教育心理 6. 作業療育学と行動分析 I 7. 作業療育学と行動分析 II 8. 作業療育学と行動コンサルテーション I 9. 作業療育学と行動コンサルテーション II 10. 単一症例実験計画法 11. 作業療育学と単一症例実験計画法 I 12. 作業療育学と単一症例実験計画法 II 13. 地域における発達支援と作業療育学 I 14. 地域における発達支援と作業療育学 II 15. 地域における発達支援の作業療育学的研究法	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めていく。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹		
教科参考図書	授業の度毎に文献を指定する。						
履修上の注意	適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。 さまざまな研究上の問題を討論しあえる、肯定的で積極的な雰囲気の講義にしたい。						
学生へのメッセージ	学生の研究に役立つ情報や実践に役立つ視点を柔軟に取り上げていきたい。						
e-mail・研究室 (連絡先)	佐竹真次 : g.ssatake@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生
作業療育学特論演習 (専門科目)	名誉教授・佐竹 真次	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	療育・教育的作業活動支援の学（作業療育学）における課題を文献的に検索し、その研究法を習得する。さらには、発達障がいをもつ人を支援するために、家庭、福祉、保育、教育等の機関や地域資源に作業療育学として介入する手法について演習し、それを身につける。						
一般目標	1. 作業療育学における課題に関する研究法を理解する。 2. 発達障がいをもつ人を支援するために、家庭、福祉、保育、教育等の機関や地域資源に作業療育学の立場から介入・参画する手法を理解する。						
到達目標	①作業療育学に関連する研究の研究計画について述べることができる。 ②発達障がいをもつ人を支援するために、家庭、福祉、保育、教育等の機関や地域資源に作業療育学の立場から介入・参画する手法について述べることができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	討論（15点） 理解度チェック（試験等）（35点） ディスカッションへの寄与（50点） 等を総合して成績評価を行う。						
授業形式	対面授業（一部を遠隔授業とする場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 30	集中講義 (後日連絡)	1. 作業療育学関連領域の文献研究 I 2. 作業療育学関連領域の文献研究 II 3. 作業療育学関連領域の文献研究 III 4. 作業療育学関連領域の文献研究 IV 5. 作業療育学関連領域の文献研究 V 6. 作業療育学関連領域の文献研究 VI 7. 家庭生活に介入する作業療育学 8. 福祉における作業療育学 9. 保育における作業療育学 10. 教育における作業療育学 I 11. 教育における作業療育学 II 12. 教育における作業療育学 III 13. 地域における作業療育学 I 14. 地域における作業療育学 II 15. 作業療育学の展望	少人数での授業形態をとり、各授業項目・学習課題について、文献等を講読しディスカッションする中で理解を深めるとともに、研究手法や実践法に関する練習をも行う。	事前・途中に文献等を指定・配布するので、予習した上で授業に臨む。	佐竹		
教科書 参考図書	授業の度毎に文献を指定する。						
履修上の注意	適切な内容と分量の予習課題を適宜に出すことがある。 さまざまな実践研究上の問題を討論しあえる、肯定的で積極的な雰囲気の演習にしたい。						
学生へのメッセージ	実践事例をとおしてわかりやすく役立つ知識や技術を取り上げていきたい。						
e-mail・研究室 (連絡先)	佐竹真次：g.ssatake@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等 履修生			
作業療法学特別研究 (専門科目)	教授・藤井 浩美 教授・菊池 昭夫 教授・佐藤 寿晃 准教授・森 直樹 准教授・千葉 登 准教授・鈴木 由美 准教授・外川 佑 准教授・仁藤 充洋	博士前期課程 1~2年	通年	10	150	必修	否			
授業概要	作業療法学分野のいざれかの領域から、院生が選択した研究課題について、研究のプロセスを踏んで、修士論文を作成する。									
一般目標	臨床や教育、研究の場において、自ら課題を発見し、解決していくための専門的知識や科学的思考力を有する。また、自らの研究課題を適切な方法を用いて検証し、妥当な結論を導き出すことができる。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法に関わる諸問題に深い関心を持ち、その解決に向けて自ら積極的に行動する意欲がある。 ・作業療法に関連する国際レベルの情報を収集し、批判する専門的知識や科学的思考力を有する。 ・自らの課題を検証するための研究計画を立案することができ、かつ実行することができる。 ・研究の実践に当たり、人や動物に対する倫理的配慮を怠らない謙虚な態度を有する。 ・実験や調査で得られた情報を適切に分析・考察し、目的に沿った結論を導き出すことができる。 ・研究結果を的確に表現し、他者に伝え、意見交換することができる。 									
成績評価方針 評価方法 および基準	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、主指導教員と副指導教員が総合的に評価します。尚、本学修士論文としての承認決議は、論文審査員による審議を経て最終的に研究科委員会で決定されます。									
授業形式	対面または遠隔講義									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
		研究計画の作成 研究テーマの設定 研究の背景と目的 妥当な実験・調査方法 適切なデータの解析方法 研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的・仮説に対応した考察 結論の導出 研究のまとめ 修士論文の作成 発表準備	各指導教員が院生の選択した研究内容や実施状況に応じて、資料の収集方法や研究実施方法、解析方法、結果の解釈、文章表現などを定期的、あるいは必要に応じて集中的に指導する。 研究を進める中で、以下の場での発表機会が設けてある。 - 研究計画発表会 - 中間発表会 - 研究発表会 - 作業療法分野会	自らの研究課題に関する情報の収集に努めるとともに、研究計画と指導教員による指示に沿って、積極的に研究を実行して下さい。						
教科書 参考図書	指導教員の指示に従って下さい。									
履修上の注意	修士論文作成のための計画書の提出日および修士論文の提出日が決められているので、十分注意すること。研究を開始する前に倫理委員会の承認が必要であるため、周到に準備すること。									
学生への メッセージ	自分自身のための修士論文に直接関わる内容です。自主性を持って、積極的に指導教員と協議しながら、しっかりと計画・実行・分析するよう努力して下さい。									
e-mail・研究室 (連絡先)	藤井：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 森：研究室 34 nmori@yachts.ac.jp 千葉：研究室 22 nchiba@yachts.ac.jp 鈴木由：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp 外川：研究室 28 tsotokawa@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp									

I 授業科目一覧

(博士後期課程)

授業科目の名称		時間 数	1年		2年		3年		担当教員 (太字は非常勤講師)
			前期	後期	前期	後期	前期	前期	
共通科目	保健医療福祉の連携・協働特論	30	2						上月・菅原・加藤・村・藤井
	研究と倫理	15	1						浅井
	高等教育政策・教育方法特論	30	2						光本・佐藤(浩)
	看護の発展と研究特論	30	2						桂
	リハビリテーションの発展と研究特論	30	2						菊池・村
	生体反応と臨床応用特論	30		2					八巻
	保健医療の社会的課題と対応特論	30		2					加藤(智)・宮坂
専門科目	保健医療教育特論	60	4						藤井・佐竹
	看護学分野	コミュニティヘルス看護学特論	30		2				菅原・上月・安保・鈴木
		ヘルスプロモーション看護学特論	30		2				桂・遠藤・齋藤
		看護学特別研究Ⅰ	30		2				菅原・桂・遠藤・安保・齋藤・鈴木
		看護学特別研究Ⅱ	60			4			菅原・桂・遠藤・安保・齋藤・鈴木
		看護学特別研究Ⅲ	60			4			菅原・桂・遠藤・安保・齋藤・鈴木
	理学療法学分野	運動器障がい動態解析学特論	30		2				村
		機能再建理学療法学特論	30		2				加藤・鈴木(克)
		理学療法学特別研究Ⅰ	30		2				加藤・鈴木(克)・石川・村
		理学療法学特別研究Ⅱ	60			4			加藤・鈴木(克)・石川・村
		理学療法学特別研究Ⅲ	60			4			加藤・鈴木(克)・石川・村・山口
	作業療法学分野	生活行為作業療法学特論	30		2				藤井・佐藤・菊池・千葉・外川
		発達過程作業療法学特論	30		2				佐竹・境
		作業療法学特別研究Ⅰ	30		2				藤井・佐藤・菊池・千葉・外川・平山
		作業療法学特別研究Ⅱ	60			4			藤井・佐藤・菊池・千葉・外川・平山
		作業療法学特別研究Ⅲ	60			4			藤井・佐藤・菊池・千葉・外川・平山